

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	人文科学研究科 国際日本学インスティテュート 修士課程《外国人》	2026年度 秋季	試験時間
小論文 (日本語)			90分

辞書参照 (可・否)

[注 意] 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

以下の文章を読み、問1・問2に答えてください。

「生きているって、どんな気持ち？」

「好奇心をそられるわ。あなたは生きていたい？」

「ああ。君は生きていてハッピーかい？」

「ハッピーであるべきだと言いたいよね。でも、まだ少ししか生きていないから、わからないわ。」

何やら哲学的な会話です。でも「まだ少ししか生きていない」子どもの会話としては、随分大人びているように感じます。

実はこの会話、香港のロボットメーカーが開発したロボット「ソフィア」と開発者のもので、会話を始めているのが開発者、「まだ少ししか生きていない」と言っているのがソフィアです。

昔から、人と会話するロボットは人間の夢でした。ソフィアは、手足こそありませんが、表情が豊かな顔をしていて、2017年には、なんとサウジアラビアの市民権を得ました。本当にロボットが人間と会話する時代がやってきたのです。

人工知能研究の歴史において、言葉を使うことは常に目標の1つでした。

研究の初期には、単語の音と意味と文字表記、また単語の並び方についての規則をプログラムしてコンピュータに教える試みが、数多くありました。つまり、人間が会話するために持っている記憶や規則を研究者が考え、この記憶や規則をロボットに持たせようとしたのです。でも、このやり方はうまくいきませんでした。

現代の人工知能はディープラーニング(深層学習)という学習の仕組みを持っています。大変たくさんの方の会話の実例をもってきて、話し手の発言を入力、聞き手の返答を出力として、入出力の関係をコンピュータに与えると、実際の会話に含まれる規則性やパターンをコンピュータが学習し、話し手の発言に対してもっともらしい返答ができるようになるのです。

言語学者は苦心して言葉の意味や規則を考えてきたのですが、この苦心はコンピュータに言葉を使わせるためには、あまり役に立っていません。言語研究者のはしぐれとしては、ちょっと残念です。

会話を楽しんでいるようにも見えるソフィアですが、実は彼女は言葉の意味を理解してはいません。彼女は、たくさんの方の会話の実例の中から、パターンを見つけ、パターンに沿った返答をしているだけです。だから、言葉の意味を理解しているとは言えないのです。

意味がわからなくても会話が成り立つなんて驚きです。なぜ意味がわからなくても会話が成り立つのかは、この後、考えていきます。ただし、私達人間は、話し手の言葉の意味がわからなければ、返答することができません。だとすると、会話する人工知能が行っていることと、私達が会話で行っていることは、かなり違うということになりそうです。

では、人間の会話とは、どのようなものなのでしょう？

(時本 真吾. 2020. 『あいまいな会話はなぜ成立するのか』 岩波書店の一部を改変)

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	人文科学研究科 国際日本学インスティテュート 修士課程《外国人》	2026年度 秋季	試験時間
小論文 (日本語)			90分

辞書参照 (可・否)

[注 意] 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

- 問1. 筆者は、自身の職業についてどう感じているかを、筆者の職業が何であることを明示し、「明らかにしようとする」という表現を使った上で、100字以内の日本語で述べてください。
- 問2. 言葉の意味を理解する人工知能は実現可能でしょうか？ 筆者の主張を踏まえた上で、あなたの考えを250字程度で述べてください。